

## スノーモービル

今年も雪遊びをしてきました。新潟県村上市大毎地区の皆さんにお世話いただく定例行事です。20人を超える人が参加します。スノーモービルの隊列を組んで山に入り、午前はウサギ狩り、午後は鴨猟です。鉄砲は猟師の方、筆者たちは勢子です。半円形の陣形に展開し、新雪の杉林のなかを「ほーい ほーい」と声を掛け、ウサギを追い上げます。追い上げた先に射撃手が待ち構え、仕留めるわけです。

中嶋哲夫の「人事も歩けば」



残念ながら、筆者はカンジキが脱げて途中脱落、ウサギも1羽も獲れませんでした。午後にめざした池には鴨がおらず、ウサギ汁と鴨鍋は幻となりました。

今年は当日の朝に大雪が降り、40センチくらいの新雪が積もりました。そうすると、モービルの前のソリが雪に埋もれたり、とられたりします。隊列はそのたびに止まらざるを得ません。筆者は1回転倒、2回のコースアウトをやって隊列を3回も停止させました。地元の方も、再三、停止します。

モービルが停止すると、ただちに救出活動が始まります。何人かが駆けつけ、声を掛けてモービルを持ち上げ、その下に雪を送り込んで固め、モービルを動けるようにする。筆者が転倒したときも、1分ほどで再度走り出しました。だれが指示するわけでもなく、スムーズに作業が進みます。

鴨猟では、モービルが止まった瞬間に5人



▲スノーモービル救出シーンを木の下で見守る筆者

の鉄砲隊の陣形ができていました。池を取り囲んだ半円形です。その中の1人が池に近づき、鴨が飛び立つ瞬間に鴨を仕留める(こうすることで鴨を地上で回収できます)。これらの作業を、これもだれが指示するわけでもなく、粛々と進めていきます。

地元の方々は「1人で山に入らない。モービルが故障したら、何キロも歩いて救援を求めないといけない」といわれます。お互いの助けがなければスノーモービルも動かさない。そんな日常だから、仲間とのつながりを大事にされ、阿吽の呼吸のチームワークが成立するようです。

支援を求める切実さがチームワークを生み出す。職場で主張される「チームの大切さ」とは、少し異質の助け合うチームの存在を感じた一日でした。

(MBO実践支援センター代表 大阪商業大学特任教授)